

HPSCでは、体力測定においても感染症対策の徹底を図っています。  
 測定項目の特徴に応じて、留意すべき内容を検討し、対策を講じる必要があります。  
 今回は、HPSCが実施しているBODPODを用いた身体組成測定での対策実施例を紹介します。  
 内容の細部詳細な点については、各施設の状況や環境にあわせて適宜調整、工夫をしてください。

## 使用機器

- BODPOD (COSMED社) ※ 体重、体容積、肺残気量を測定して身体密度を算出し、身体組成を推定する機器
- ⇒ 過去に測定をしたことのある選手は過去の肺残気量を使用する (Enteredモード)
  - ⇒ 初めて測定する選手は推定の肺残気量を使用する (Predictedモード)
  - ⇒ 測定スケジュールに余裕がある場合にのみ肺残気量を測定をする (Measuredモード)
  - ※ HPSCでは、肺残気量測定後72時間は同一機器を使用しない

## 注意事項

- 選手は入室後に手指消毒を行い、荷物はかごに入れ、使い捨てスリッパに履き替える
- 車いす選手は入室後に手指消毒を行い、専用ローラーを用いてタイヤを拭く
- 肺残気を機器に吹き込む肺残気量の測定では、特に感染症対策が必要



## 接触感染を防ぐための工夫

- ⇒ ゴム手袋を必ず着用し、選手ごとに交換する
- ⇒ 選手へ配布する水着は洗濯後に個包装し、直接触れないようにする
- ⇒ 選手ごとに機器を消毒する ※ 機器の劣化を避けるため、適した消毒液を使用する
- ① BODPODの本体 (白い箇所) は次亜塩素酸Na (0.1%濃度) で消毒  
 ※ 次亜塩素酸Naで消毒した後は扉を全開にし、10分後に水拭きをする
- ② 上記以外の箇所、機材はエタノールで消毒



## 飛沫感染を防ぐための工夫

- ⇒ 窓の開放やサーキュレーターは使用せず、空調で十分な換気ができるよう入室者数を制限する
- ⇒ マスク※を必ず着用する ※ 一般的なマスクの着用であれば体積測定に影響はない (COSMED社)
- ⇒ 肺残気量の測定後は機器を72時間※使用しない
- ⇒ 肺残気量測定の有無に関わらず、青色のフィルタを空気口に装着※し、選手ごとに交換する

HPSCでは、不織布3層構造のマスクで統一

※ 青いフィルタを装着していれば、ウイルスは99.9%カットできるとされている (COSMED社) が、HPSC内で検証作業を行っていないため、肺残気量測定後の使用はウイルスが不活化する72時間後まで控えている  
 ※ 上記はCOSMED社の報告を参照し作成しました (右QRコード)



## 機器の消毒①

### 次亜塩素酸Naを用いた消毒



BODPODの本体  
(内壁、外壁：白い箇所は全て)

## 機器の消毒②

### エタノールを用いた消毒



① ガスケット (黒ゴム部分) ② 窓  
 ③ マグネット ④ ダンパー ⑤ 床面

### その他箇所

- BODPODの取手
- 校正器
- PC/周辺機器
- BODPODの体重計
- 青いフィルタを装着した空気口  
 ※ エタノールを染み込ませた綿棒を使用

